

・タイトル 『ファニーたい焼きトム』
マッシュカボチャ』

・あらすじ

日本都内にある、中身が独特のたい焼き屋『たい焼きトム』。店主の米国人トムが斬新なたい焼きを作り、販売。

今回のたい焼きの中身は『マッシュカボチャ』！？味は？売れ行きと評判は？

・登場人物

○トム 30代前半、男。『たい焼きトム』の店主。たい焼き大好き米国人。『どうせ作るならファニーなたい焼きを！』をモットーに、中身が独特のたい焼きを發明する。エンタメ精神が強く、快活、陽気な性格。

○魚住 20代前半、女。『たい焼きトム』のバイト店員。たい焼き好きな日本人。

真面目、心配性な性格。トムの発案するたい焼きに毎度困惑。しかし、たい焼き愛が働き、結局協力する。接客は得意。

【シーン一：発案】

（店内。トムが厨房で何かを考えながら、白板にメニューを書こうとしている）

トム「……よし、今日の新メニューを考えよう！」

（魚住が店の奥から出てくる）

魚住「また新メニューですか？昨日もタピオカあんこたい焼きで大騒ぎだったのに……」

トム「HAHAHA！ファニーなたい焼きに終わりはない！今日は……マッシュユカぼちやたい焼きだ！」

魚住「は！？ かぼちゃ？ たい焼きに……？」

トム「そうさ！ 秋といえばかぼちゃ！ パンプリンパイのように甘く、シナモンとバターで香ばしく仕上げる！ まるでハロウィンの祭典のような味だ！」

魚住「うーん……たい焼きってそういうものなんですかね……」

（トム、熱く語る）

トム「大事なものは、楽しいかどうか！ ワクワクするたい焼きこそ、フアニーたい焼きの真髄だ！」

魚住「（ため息）……どうせ止めても作るんですよね」

トム「YES！ レッツゴー調理！」

【シーン 2: 調理】

（厨房。大量のかぼちゃが並ぶ。トムが意気揚々とマッシュしている）

トム「見よ！この黄金の輝き！太陽の恵みを受けたマッシュかぼちゃ！」

魚住「（驚き）なんでこんなにかぼちゃ仕入れたんですか！？こんなに売れるんですか？」

トム「足りなくなると困るだろう？

HAHAHA！」

（トム、バターを投入し、かぼちゃを混ぜる。香ばしい香りが立ち込める）

魚住「……（クンクン）あれ、なんか美味しそうな匂い」

トム「そうだろう！甘さを引き立てるシナモン！そしてちよつとの隠し味……」

魚住「な、何を入れたんですか……？」

トム「秘密だ！」

魚住「（嫌な予感）」

（生地を焼きながら、かぼちゃフィリングを詰める。焼き上がるたい焼きから湯気が立ち上る）

魚住「（じっとたい焼きを見つめる）……もしかして、これ……美味しいのかも？」

トム「HAHAHA！ だろう！ では、いよいよ開店だ！」

【シーン3：開店・飯テロ】

（店のシャッターが上がる。すでに数人の客が並んでいる）

客A「お、今日は新作があるみたいだぞ！」

客B「マッシュユカぼちゃたい焼き？ なんか想像つかないけど……気になる！」

（トム、カウンターでハイテンションに
宣伝）

トム「レディース・アンド・ジェントルメ
ン！本日のスペシャルたい焼きはマツシ
ユかぼちゃ！ふわふわ甘くて、とろける
ハロウィンパーティーの味！」

魚住「（小声）なんでいつもショーみた
いになるんですか……」

（最初の客が購入し、一口食べる）

客▶「……（無言）」

魚住「（ドキドキ）」

客▶「う、うまい！！マジでかぼちゃ
の甘みがすごい！たい焼きの皮のカリッ
と感と、かぼちゃのトロトロ感が絶妙！」

（他の客たちも次々と食べる）

客B「んんっ！？　バターのコクとシナモンの香り……これはスイーツだ！」

客C「後味にちよつとだけ塩気が……甘じょっぱい！！止まらない！」

（店の周りに甘く香ばしい匂いが漂い、人が次々と集まり始める）

魚住「（驚き）……売れてる……！」

トム「HAHAHA！　ファニーたい焼きに不可能はない！」

（次々と焼き続けるトムと魚住。その様子をスマホで撮影する客の姿も）

（SNSで拡散され、いよいよ評判が爆発していく……）

【シーン4: 評判・SNS】

（店の前にテレビ局の取材班が到着）

リポーター「今、都内で話題沸騰中の『たい焼きトム』！なんと、アメリカ店主が作る奇抜なたい焼きが大人気のとこと！さっそく行ってみましょう！」

（カメラが店内にズームイン）

トム「ワオ！テレビか！ママ、見てるかい！？僕のファニー！たい焼きが日本全国に放送されるぞ！」

魚住「ママ見てないでしょ……っっていうか、取材の対応ちゃんとしてくださいよ！」

リポーター「では、早速この『マッシュカぼちゃたい焼き』をいただきます！」

（リポーター、一口かじる）

リポーター「んんっ！？な、なんですかこれは！？ふんわりとしたかぼちゃの甘さ！クリーミーな口当たり！バターとシ

ナモンの香りがふわっと広がる！これは
まるで……秋の収穫祭だ！！！」

（カメラマン、思わずかじる）

カメラマン「うまっ！！！」

（スタジオの司会者たちも驚き、スタジオ
オで試食コーナーに）

（その後、SNSがさらに加熱し、拡散さ
れる）

ツイッターの反応「＃たい焼きトムやば
い＃秋の味覚」「マッシュカぼちゃたい
焼き、革命的なうまさ」「トムのテンシ
ョンの高さに笑うけど味は本物」

【シーン⑤：隣町のたい焼き屋のスパイ】

（店の奥で怪しげな男がたい焼きを食べ
ている）

怪しい男「……これは……!?なぜこんな
にうまい!?!」

(男、正体を明かす)

男「実は……私は隣町のたい焼き屋『た
い焼き五郎』の店主だ!!!」

魚住「スパイ!?なんでスパイみたいな
ことしてるんですか!?!」

五郎「この新作を真似しようと思った
が……無理だ!!!この大胆さ、アイデア、
そしてトムのテンション……真似できる
はずがない!!!」

トム「HA-HA!それがファニーたい焼き
の魔法さ!」

五郎「くっ……完敗だ……!」

(五郎、静かに去る)

【シーンの：閉店】

（閉店作業中。店内には売れ残った大量のかぼちゃが積まれている）

魚住「……トムさん、結局かぼちゃ、仕入れすぎたんですよ！」

トム「だって……足りなくなるかもって思ったんだよ……」

魚住「多すぎですよ！明日どうするんですか、このかぼちゃ！？」

トム「……新メニューを考えよう！！！」

魚住「もうやだ……（呆れ）」

（カメラがズームアウトし、店の看板が映る。エンディング曲と共にフェードアウト）

（完）